西浮通信

令和６年９月２日
ＮＯ．４０５
東京都北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる

考える力は豊かな言葉から

校長　小島　みつる

厳しい暑さが続いた夏休みが終わり、９月の学校生活が始まりました。元気に登校してきた子供たちは、夏の思い出を心と体にいっぱい詰めて、一回り大きくたくましくなったように感じます。長い夏休み中、ご家庭からは大きな事故や病気の連絡はなく、６年日光高原学園やサマースクール、水泳指導などの学校行事も無事終了しました。保護者の皆様や、ラジオ体操や盆踊りなど地域の方々のご支援のお蔭と心から感謝申し上げます。子供たちにとって夏休み中の貴重な体験は、今後の生活に活かされる力として蓄えられたことと思います。夏休み明けの今、一番大事なことは、少しでも早く規則正しい生活リズムを取り戻すことです。お医者様にそのための良い方法をお聞きしたところ、「とにかく朝起きる時間をいつも同じにすること。」だそうです。まずは、早起きを！

本校ではこれまで、「相手の立場に立って考え、人の思いを想像できる子」の育成を重点に指導を進めてきました。人と人が繋がる（コミュニケーション）ためには「思いやり」が大切であり、そのためには相手の気持ちを推し量る力＝「想像力」が大切だと考えたからです。けれど、いろいろな取組みを進める中で、相手の気持ちを推し量る以前に、自分の思い、感情、感覚を言葉で説明できない子供の姿が気になるようになりました。「楽しい」「うれしい」「悲しい」以外の感情を表す言葉を知らない子･･･はまだしも、「ウザイ」「キモイ」「はぁ～？」でしか返答できない子。また、否定でも肯定でも「感嘆詞」は「ヤバ～イ！」のみであったり、メールや SNS でつかわれる短縮言葉が通常言語になっていたり･･･もちろん、これは、西浮っ子固有の問題なのではなく、子供を取り巻く日本語の言語環境の大きな問題でしょう。

私たち人間は、「言葉」をつかって考えます。国語だけでなく、算数でも理科でも社会でも、何かを考えるときには「言葉」をつかって考えます。母国語の語彙が豊かでないと、外国語を学ぶにも理解が深められません。勉強だけでなく、野球やサッカーの作戦を練るときも、感情を込めて歌おうとするときも言葉の力が必要です。そして、その言葉をつかいこなして、人とのコミュニケーションを図っていきます。そう考えると、つかえる言葉が「ヤバイ・ウザイなど数えられるだけ」の状況が、本来の意味で本当に「やばい（危険や不都合な状況が予測されるさま）」ことだとご理解いただけることでしょう。

どんなにデジタル化が進もうと、直接、「言葉」を交わす経験を大切にし、そしてその「言葉」は豊かで美しい日本語をつかいこなしていきたいものです。考えること、コミュニケーションの大元である「言葉」。言葉はつかいながら学ぶのが一番です。ご家庭でも、ぜひ「ウザイ」「キモイ」「ヤバイ」「短縮語」を話し言葉から封印し、わざとちょっと難しい言葉をつかって話し、子供が「それ、どういう意味？」と聞いてきたらしめたもの、そのときにはわかりやすく説明してあげてはいかがでしょうか？豊かな言葉がしっかり考える力となり、自分を表現し相手を理解する源となり、豊かな人間関係もつくっていくのです。

＊＊

これまで夏休みに行っていた個人面談を、今年度から１学期末に行います。これは、これまで１学期通知表の総合所見に記載した内容に加え、現状の課題についてもしっかりお伝えしていきたいと考えたからです。総合所見では９割方「頑張ったこと・できたこと」を記述してきましたが、実際には２学期以降に向けて課題やその改善策、ご家庭でもご協力いただきたいことなどが、どのお子さんにもあります。個人面談でそれを丁寧にお伝えし、これからのお子さんの成長に役立てたいと考えます。１学期通知表の総合所見欄は「面談でお伝えした通り」と記述いたします。全員の面談を期間内に実施いたしますので、ご理解ご協力をお願いいたします。